

会議録

会議の名称	令和5年度（2023年度）第1回 枚方市上下水道事業経営審議会
開催日時	令和5年6月20日（火） 開始時刻 13時30分 終了時刻 15時30分
開催場所	対面とオンラインの併用開催 （枚方市上下水道局管理棟4階大会議室）
出席者	真山会長、八木副会長※、浦上委員※、西浦委員、中川委員、 中島委員、河本委員、山城委員、覚道委員（※オンライン出席）
欠席者	笠原委員、松原委員
案件名	1. 令和4年度（2022年度）水道事業 施策評価（速報版）について 2. 令和4年度（2022年度）下水道事業 施策評価（速報版）について 3. 枚方市水道施設整備基本計画及び枚方市下水道整備基本計画の中間見直しについて 4. 枚方市水道事業経営戦略及び枚方市下水道事業経営戦略の中間見直しについて 5. その他
提出された資料等の名称	資料1 ビジョンの推進（評価）について 資料2-1 枚方市水道ビジョン2022 施策評価一覧表【R4年度】 資料2-2 令和4年度「枚方市水道ビジョン2022」 施策評価シート 資料2-3 具体的取組のR5年度目標一覧（「水道ビジョン2022」 施策評価） 資料3-1 枚方市下水道ビジョン2022 施策評価一覧表【R4年度】 資料3-2 令和4年度「枚方市下水道ビジョン2022」 施策評価シート 資料3-3 具体的取組のR5年度目標一覧（「下水道ビジョン2022」 施策評価） 資料4 枚方市水道施設整備基本計画 及び枚方市下水道整備基本計画の中間見直しについて 資料5 水道及び下水道事業に係る経営戦略の中間見直しについて その他資料 上下水道局 出席職員等一覧、会場配席図
決定事項	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度決算確定後の第2回審議会で、事務局から経営評価と施策評価を報告し、外部評価を行う。 水道施設整備基本計画、下水道整備基本計画、経営戦略の中間見直しは年度末まで作業がかかる。その報告があるため、本年度は審議会を3回開催する。 第2回の開催は11月頃、第3回の開催は3月頃の予定で、事務局が調整の上連絡する。
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍聴者の数	1人
所管部署（事務局）	上下水道計画課

審 議 内 容

案件（１） 令和４年度（2022年度）水道事業 施策評価（速報版）について

事務局： （資料１、資料２－１・２－２・２－３に基づき、ビジョンの推進（評価）及び令和４年度水道事業施策評価（速報版）について説明）

山城委員： 資料２－２、１ページ、「１．水質管理体制の強化」のところで、メディア等で話題となっている有機フッ素化合物（PFOS・PFOA）について枚方市内にある３箇所の河川で値が高い件を上下水道局に問い合わせを行いました。
その際に水道水内の有機フッ素化合物の値は目標値以下であると回答をいただきましたが具体的な有機フッ素化合物の目標値と測定値をお伺いします。
それに合わせて水源監視を行っている河川についてお答えいただけますでしょうか。

事務局： ご質問いただいた水源監視河川については淀川本川及び、淀川に流れ込む木津川、宇治川、桂川で淀川水質協議会と協力し検査を行っております。
有機フッ素化合物の目標値につきましては１リットルあたり 50 ナノグラムとなっており、原水である淀川において１リットルあたり 10 ナノグラム前後で推移し、年間を通して目標値を下回っています。

山城委員： 淀川本川に流れ込んでいる船橋川、天野川、穂谷川で有機フッ素化合物の値が高いと伺いました。環境部局にも問い合わせを行い、何かしら対応をしているのかと確認をしたところ環境省から改めて通達が来た場合に対応を始めると返答をいただいております。
上下水道局においても環境省からの通達があった際、環境部局と連携を取り、水源の保全に努めていただくようお願いいたします。

河本委員： 資料１、３ページ、施策評価基準について大文字のSからCの判断基準がはっきりとせず、施策評価の流れについて不明瞭な箇所が見られました。
例えば指標がcでは「目標達成に向けて、抜本的な見直しを要するもの。」とあり、具体的取組が◎「取組内容が順調に進み、今後も継続して実施するもの。」とあります。これを基に施策評価を行った場合、評価がAとなるが、内容が食い違っているのではないのでしょうか。
また指標がs、具体的取組が×となっている場合、「目標達成に向けて、計画どおり進んでいるもの。」「取り組みができないもの。」となり施策評価がA評価であることはいささか疑問です。
この評価方法では基準が明確でないため、指標や具体的取組にポイントを割り振

り 10 点満点での評価を基に S から C の評価を行った方がよいと考えます。今回の施策評価について S から C をつけるための基準を教えてください。

事務局：

施策評価についてはビジョンに示す取り組みの方向性ごとに評価を行っており、採点方法は各指標、各具体的取組についてそれぞれ s から c、◎から×で評価基準に基づき採点し、点数化をした上で指標、具体的取組の平均点から S から C の施策評価を行っています。

また評価の基準はご質問いただいたとおり、指標と具体的取組が食い違うケースがあります。これは具体的取組の内、指標に直接結びつかない内容も含まれることがあるため、こうした指標と取組内容の評価に差が生まれます。

しかし、施策評価を恣意的なものにしないために誰がつけても同じ評価ができる形式で評価しました。

河本委員

4 段階評価の欄に S から C の表記に加えて点数を記入した方が理解しやすいかと思えます。

事務局：

市民の皆様により分かりやすいような表現を目指します。

真山会長

説明を追記してより分かりやすい表現にしたほうがよいかと思えます。また施策評価の S から C について説明がないためアルファベットの持つ意味合いが分かるよう修正をお願いします。

覚道委員

資料 2-2、5 ページ、「4. 水道施設等の計画的な更新と耐震化」における評価理由について「配水池の耐震化率は、妙見山配水池の更新による耐震化等を検討している」と表記をしています。これは、これから耐震化に取り組むための検討を行っている意味合いであるかと思えます。

しかし 7 ページ、「5. 災害対策の充実」の評価理由では「妙見山配水池の耐震化に遅れが生じている」と記載があり、内容に齟齬を感じます。

耐震化の手法を検討しているのか、耐震化自体を行うことを検討しているのか、わかりやすい表現に変えたほうがよいのではないのでしょうか。

次に資料 2-2、12 ページ、「8. 運営基盤の強化」における具体的取組 8-⑤「遊休施設や既存施設の有効活用を検討します。」の取組内容について「提案はありませんでした。」と記載があります。

昨年度（令和 4 年度）は活用を推進したが具体的な有効活用には繋がらなかったという内容であれば「提案はありませんでした。」という表現は変更した方がよいのではないかと考えます。

資料 2-2、17 ページ、「10. 環境対策と社会的目標の実現」における具体的取組 10-⑤の実績欄でエネルギー使用量についてまとめていますが軽油使用料のみ単位が料金の「料」となっており、統一感がありません。

また関係する内容で資料2-3、3ページ、R5年度目標10-⑤について公用車のエネルギーについて前年度より1%減少とありますが、これは二酸化炭素排出の量についてか料金についてなのか、お答えください。

事務局：

評価シート5ページ、「等」と記載をしているのは耐震化をするにあたって更新、最適配置として他の配水池と統合が可能かどうかを含めて検討しているため、このような表現をしております。しかし、誤解を招く表現のため、適切な表現に修正をします。

次に遊休施設等の有効活用については、「提案はありませんでした。」から「有効活用に繋がりませんでした。」と、より分かりやすい文言へと修正します。

資料2-2、17ページ、具体的取組10-⑤については「量」で表現を統一させていただきます。また、資料2-3、3ページ、R5年度目標10-⑤で触れているエネルギーについてはボリュームの削減を目標にしているため、文言を修正します。

河本委員：

資料2-2、1ページ「1. 水質管理体制の強化」について様々な取組を行っていますが、実際にサービスを受けている利用者からの評価も必要ではないでしょうか。例えば、令和4年度に大阪広域水道企業団や大阪市、高槻市がアンケートを実施しており、枚方市が平成29年度に実施したアンケート結果と比べ枚方市の満足度が他市よりも低い値でした。

水道利用者へのアンケートを反映するとすれば、どのように反映させることを考えていますか、お答えください。

事務局：

利用者の声については日頃の問い合わせから施策に反映できるものがあるかと思えます。また本市も平成29年にアンケートを実施した他、平成30年度に水道施設整備基本計画を策定する中でアンケートやパブリックコメントからご意見をいただいたものを計画等に反映しています。

委員のご意見のとおり、近年、他市でアンケートが実施されており、本市においてもアンケートの実施を検討します。

河本委員：

大阪広域水道企業団が行っているようなインターネットを活用した手法であれば手軽に実施可能と思えますので、頻繁にアンケートを取り、利用者の声をより反映できるようにしていただければと思います。

中川委員：

資料2-2、5ページ、「4. 水道施設等の計画的な更新と耐震化」、指標4-(1)で浄水施設の耐震化率の評価について対象が無いためか、評価外ということで評価sをつけているのでしょうか。

事務局：

指標の評価は、令和10年度の目標が達成できる見込みがあるかどうかで判断をしています。

例えば、先ほど説明させていただきました妙見山配水池の耐震化は、令和10年度に耐震化を達成できないため評価をbとしています。浄水施設の耐震化につきましては現段階で令和10年には目標値へ到達できる見込みがあるため、指標の評価をsとしています。

中川委員： 印象として、令和4年度の実績値が0であるにも関わらず評価がsであることは理解が難しいかと思います。他の尺度で実績を記入していただいた方が評価の説明としてはより分かりやすいと思います。

真山会長： 指標の性質上、毎年数値が更新されるものと数年ごとに一気に改善する指標がありますので、資料としてまとめた際に理解が難しいものかと思います。そのため、欄外に注釈等がある方がよいかと思います。

案件（2） 令和4年度（2022年度）下水道事業 施策評価（速報版）について

事務局： （資料3-1・3-2・3-3に基づき、令和4年度下水道事業施策評価（速報版）について説明）

河本委員： 資料3-2、16ページ、「11. 環境対策と社会目標の実現」具体的取組11-④について下水道台帳をホームページに公開したとあります。きてみてひらかたマップから下水道台帳を確認しましたが、下水道管を何年前に布設したのかを確認することはできますか。

例えば自宅の前の下水道管がいつ布設されたものかが分かるようになれば、市民としても自分事として理解しやすいのではないかと思います。そうなれば、今後、管路更新のため料金等の値上げが必要になった際にも納得しやすいかと思いません。

事務局： 下水道台帳のホームページでは記載しておりません。通常、開発事業者が埋没状況を確認されることが多いので、布設年度等の調査は窓口で直接対応を行っております。

河本委員： マッピングシステムを用いて情報公開をすれば情報の更新が素早くできると聞きました。私たち市民も水道・下水道施設がどれだけ老朽化をしているかを身近に把握できるようにしていただきたいです。

事務局： 上水道の給水管については個人情報に含まれることがあるため、どの程度まで公開を行うかを検討しております。

河本委員： 確かに、給水管は各個人のものであるので公開できないものですが、市で管理している配水管であれば公開できるかと思います。

事務局： 他市の事例や ID、ログイン方法等を研究しながら取り組んでいます。

中川委員： 施策目標について上下水道ともに言葉が専門的である印象を受けました。そのため表現についてはもう少しわかりやすくしていただければと思います。

事務局： 確定版に向けて資料の改善を進めていきます。

覚道委員： 資料 3-2、13 ページ、「9. 運営基盤の強化」具体的取組 9-⑨について目標は市内 8 か所のマンホールに新規広告を掲載することであり、実績には市内 5 箇所で設置できたと記載がありました。これは 13 箇所のうち、5 箇所に設置ができたということでしょうか。

事務局： 下水道マンホールの広告については現在、13 箇所で募集を行っています。そのうち、5 か所については広告がついています。令和 2 年から 6 年にかけては広告を継続しているため残り 8 箇所についてはまだ広告がついていない、ということですが。

覚道委員： 了解しました。初めて読んだ場合、内容が分かりにくいので表現を改める必要があると思います。

中島委員： 東部企業団地における下水道整備の件ですが、資料 3-3、令和 5 年度の目標には含まれていないのでしょうか。

事務局： 東部企業団地につきましては地下埋設物が輻輳しており、現状での整備は困難なため令和 5 年度の目標には取り上げておりません。道路の拡幅等、今後の動向を注視します。

中島委員： 先週も東部企業団地の方とお話をした際に強い要望がありました。簡単な問題ではないかと思いますがよろしく願いいたします。

浦上委員： 水道ビジョン 2022、下水道ビジョン 2022 に基づいて令和 4 年度の内部評価を行い、非常に素晴らしい取り組みをしていると報告してもらっています。それに基づき、令和 5 年度を取組目標について報告してもらっていますが、令和 4 年度の目標から表現や記載内容が変わっている印象を受けました。目標といっ

でも事業計画どおり取り組むべき内容の目標、令和4年度の内容に対してさらにレベルアップをした内容の目標、毎年度同じ取り組みを行うことが必要である目標があると思います。

また、令和4年度では「検討します」と表現している目標が、令和5年度に「実施します」と表現を変えただけのも見られました。

資料1、1ページでは年度当初に目標を設定すると表記していますが、表現を変えただけのもが目標とすることが適切なのでしょうか。

令和5年度以降についても目標を設定していくかと思いますが、目標設定の考え方や方針等があれば教えていただきたいです。

事務局：

委員ご発言のとおり、毎年レベルを保ちながら進めていく目標、計画に基づいて数値が毎年変わる目標があります。

施策については新たに取り組む内容の項目を追加することでレベルアップを図ることができるかと思しますので、既存の目標については引き続き取り組むものとして記載しています。

浦上委員：

そうしますと、私が先ほど目標の掲げ方について3つにカテゴリー分けをしましたが、それぞれの目標がどのような意味合いを持って掲げられているのか、色分けができるのであれば目標設定がより明確に分かりやすいものになるかと思しますのでご検討ください。

事務局：

委員のご意見は、引き続き継続するのか、レベルアップを図るものかをカテゴリー分けするという理解でよろしいでしょうか。

浦上委員：

そのとおりです、よろしく願いいたします。

真山会長：

単年度ごとの目標を達成していけば令和10年度の最終目標を達成できる構造かと思しますので、単年度の目標の立て方や基準を視覚化する必要はあると思しますので工夫をお願いします。

案件（3）

枚方市水道施設整備基本計画及び枚方市下水道整備基本計画の中間見直しについて

事務局：

（資料4に基づき、枚方市水道施設整備基本計画及び枚方市下水道整備基本計画の中間見直しについて説明）

山城委員：

枚方市水道施設整備基本計画においてスペックダウンの検討、更新需要の削減とあります。今後、枚方市の人口は減少をしていくため妥当であるとは思いますが、

近隣の市から水道事業を支援してほしいと要望があれば、枚方市の水道施設等のスペックを維持しながら支援はできるのではないのでしょうか。また支援を通じて収入を得ることはできないのでしょうか。

事務局： 水道法に基づく認可の関係で、他市に給水をして収入を得ることはできません。

山城委員： 大阪広域水道企業団と話を進めて広域化に取り組むとありますが、こういった流れで行うのでしょうか。他市も含めて統合をする印象ですが、一斉にはなく徐々に取り組んでいくのでしょうか。

事務局： 府域一水道についてはおおさか水道ビジョンにも示されたものであり、大阪府営水道から大阪広域水道企業団となると、人口減少に伴う収入の減少に対応し、施設の共同化を行うことで効率的な運営が見込まれるため、企業団を核として大阪府内の全市町村が参画した一水道を目指していくこととなりました。枚方市も企業団の構成団体であり、将来的には企業団を核として府域一水道を目指しております。しかしながら、施設の統合や水道料金、体制等の課題など、メリット、デメリットがありますので、現段階では市町村ごとに企業団と協議を進めながら統合を検討しています。

山城委員： これまでの審議会でも水道管の老朽化が進んでいることを報告いただいておりますが、これは枚方市民にとって好ましくありません。水道料金の改定が必要であれば現状と将来について検討していただき、市民に分かりやすい説明をいただきたいと思っております。

河本委員： 大規模な災害や事故があった場合、近隣市町村が協力をして支援を行う協定があると聞きました。平時では給水を行わない市町村が、災害等の被害にあった際は給水を行うということでしょうか。

事務局： 平時に他市へ水を供給できるのは、大阪広域水道企業団のような用水供給事業という事業認可がある事業体に限られており、枚方市の給水は枚方市内に限られています。災害時は近隣市との間で設置している連絡管や給水活動で支援するなど、協定を結んでおります。

案件（４） 枚方市水道事業経営戦略及び枚方市下水道事業経営戦略の中間見直しについて

事務局： （資料５に基づき、枚方市水道事業経営戦略及び枚方市下水道事業経営戦略の中間見直しについて説明）

※質疑なし

案件（５） **その他**

事務局： 令和５年度の審議会は今回を含め３回開催します。
次回、第２回は１１月頃、第３回は３月頃を予定し、日程等の詳細については後日、事務局が調整の上、連絡をさせていただきます。

以 上